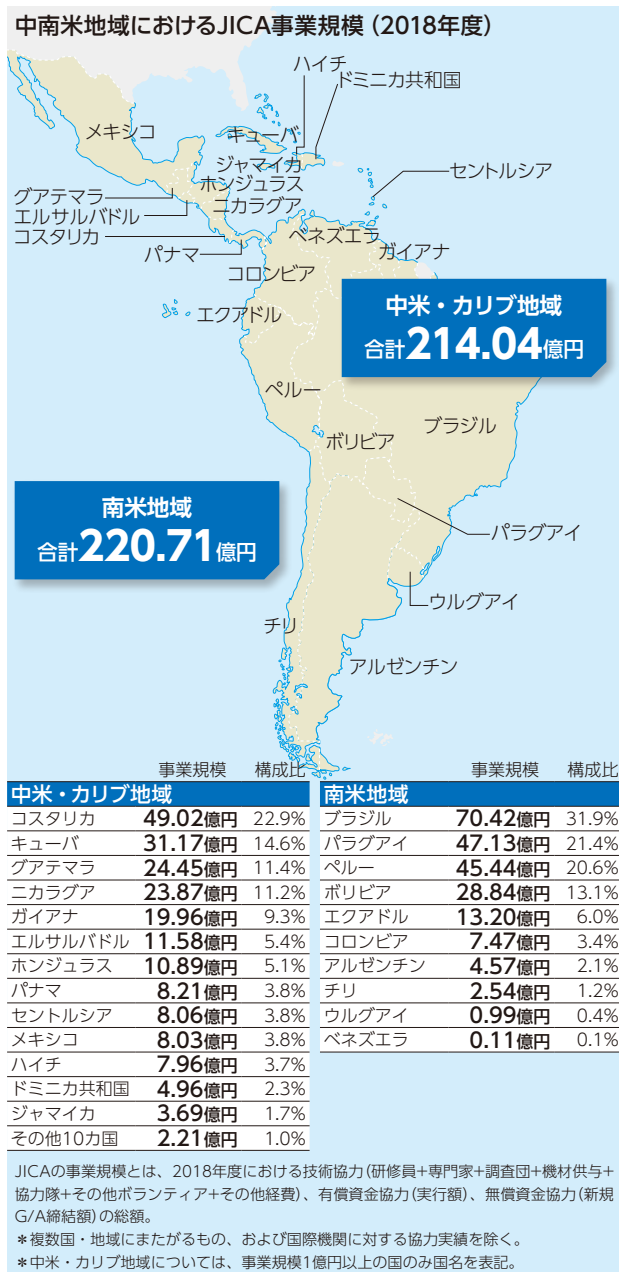


中南米

新たなパートナー関係の構築



地域の課題

中南米地域は、日本から見て地球の反対側に位置する、地理的には最も遠い地域です。しかし、移住周年記念行事への皇室のご訪問などの報道や、中南米産の水産物や農産物など、日々の生活のなかでも中南米との関わりを身近に感じる事が多くあります。

中南米地域は33カ国、総人口6.4億人(世界人口の8.4%)を有し^{*1}、GDPの規模は4.74兆ドル(2017年)でASEAN地域の約1.7倍^{*2}。210万人を超える日系人

の存在や、食料・鉱物資源の輸入といった点で、伝統的に日本と強い結びつきを持つ親日国が多い地域です。民主主義の定着や環境対策、G20や環太平洋経済協定などさまざまな面で日本との関係が深化している国々もあります。また、2018年1月に高所得国に移行したチリ、ウルグアイをはじめ、メキシコ、ブラジル、アルゼンチンなど所得の高い国があり、地域全体としても所得レベルは平均的に高い状況です。

一方、地域内と国内の格差問題、カリブ地域の小島嶼国を中心とした気候変動や自然災害などへの特別な脆弱性、「中進国のわな」^{*3}、日本も直面する社会問題(人口の高齢化等)など、依然として多くの開発課題が見られます。

JICAの取り組み

中南米地域に対する開発協力は、これまでの協力実績を活用しながら協力対象分野を絞り込み、日本との友好的な結びつきをさらに強化し、ひいては国際舞台で協働できる関係づくりを目指して行われています。具体的には、投資環境整備に貢献するインフラの整備、防災、気候変動対策、格差是正を重点領域として協力を展開し、知日派人材の育成や日系社会との連携を強化しています【→ P.64を参照ください】。

1. インフラ整備

中米地域では、物流インフラの整備の遅れや国境通過に必要な手続きの煩雑さが、域内の連結性にとって課題となっています。このため、JICAは中米6カ国を対象に、国境を越えた戦略的な物流を可能とするマスタープランの策定支援を開始。あわせて交通・物流分野の需要予測や計画策定に関する技術移転を行っています。

2. 防災

チリは日本と同様に地震や津波などの災害多発国であり、JICAは長年にわたり防災分野での協力を実施してきました。同国に蓄積された知識や技術の中南米全体への普及に向けて、チリと日本の戦略的パートナーシップによる域内の防災人材の育成を推進しています。加えて、チリの防災体制のさらなる強化のために新たな技術協力プロジェクトを2018年10月から開始しました。

^{*1} 1、2 World Bank, World Development Indicators (2017)
^{*3} 貧困状態から抜け出し、所得水準を達成した国が賃金上昇などのため国際競争力を失い、経済成長が停滞する状態を指す。

3. 気候変動対策

世界最大の熱帯雨林であるアマゾンの森林や生物多様性の保全のため、ペルーでは熱帯林の減少による気候変動の抑制に向けた協力を実施しました。また、ブラジルでは自然環境そのものを展示物とみなす「フィールドミュージアム」を整備し、生態系の解明や環境教育、エコツーリズムを推進するなど、人と自然の新たな共生モデルの構築に取り組みました。

4. 格差是正

世界有数の農牧産品輸出国であるパラグアイのさらなる輸出の促進と、これによる経済成長と貧困削減を目的として、小規模農家の貴重な収入源となっているゴマなどの残留農薬問題の解決に向けた協力を行いました。また、生産地から輸出港までのアクセスを改善するための道路整備を円借款「東部輸出回廊整備事業」により支援しています。これにより、ゴマなどの同国産品の大口輸出先である日本や世界の食料安全保障にも貢献しています。

5. 留学制度を活用した人材育成

中南米諸国の潜在能力を高め、社会経済開発に貢献し得る優秀な若手行政官や研究者などの高度人材の育成支援を実施しています。2018年度には、新しい留学生受入事業「SDGsグローバルリーダー・コース」を立ち上げ、中南米地域の持続可能な開発目標(SDGs)達成に向けた開発協力を推進し、わが国との中長期的で良好な関係づくりを目指した人材育成を開始しました。



ブラジル：日本の専門家とブラジルの研究者が森林を調査(フィールドミュージアム構想によるアマゾンの生物多様性保全プロジェクト) ©Tsuneaki Yabe

今後の協力としては、米州開発銀行(IDB)や民間企業など多様なパートナーとの連携を進め、日本政府が中南米政策として掲げる3つの指導理念(発展・主導力・啓発を共に)と連結性強化構想(経済・価値・知恵の連結)を踏まえ、経済基盤整備、再生可能エネルギー・省エネルギーの推進、防災人材の育成、環境保全につながる協力を進めるとともに、移民・難民問題を含む格差是正に取り組みます【→ 下事例、P.36事例を参照ください】。また、日本と中南米のネットワーク拡大のため、親日・知日人材の育成や日系社会との連携を強化していきます。

中南米地域 地域警察制度の普及に向けた日本・ブラジル・中米間の三角協力

治安の改善を通じ、移民問題にも貢献



グアテマラ：市民と交流する警察官(コミュニティ警察の普及を通じた警察人材育成プロジェクト)

2018年10月、ホンジュラス北部から米国を目指す3,000人規模の移民集団が北上を開始し、グアテマラを越えメキシコに流入しました。中米北部3カ国で多くの移民が発生している理由は、貧困だけでなく、マラスと呼ばれる犯罪集団による暴力行為・恐喝・組織の勧誘などから逃れるためともいわれています。治安改善は移民問題の一因としても重要な課題です。

JICAは過去にブラジルで「地域警察活動普及プロジェクト」を実施し、日

本式の地域警察制度の普及を行いました。その経験を生かして、今度はブラジル人専門家を中米諸国へ派遣する、日本・ブラジル・中米間の三角協力を進めています。

多くの移民が発生しているグアテマラでも、ブラジルでの協力経験を活用した「コミュニティ警察の普及を通じた警察人材育成プロジェクト」を実施中です。地域で信頼される警察官が増え、検挙数の増加や殺人件数の減少と治安改善につながっています。